

胸部大動脈瘤、Stanford B型大動脈解離、外傷性大動脈損傷(thoracic aortic aneurysm, Stanford type B aortic dissection, traumatic aortic injury)

- 胸部大動脈瘤は、胸郭内にある大動脈の壁の一部が、全周性または局所性に拡大または突出した状態を指す。大動脈瘤のサイズや形状等から破裂のリスクが高いと判断された場合に、侵襲的治療(外科手術や血管内治療)が行われる¹。
- Stanford B型大動脈解離は、大動脈解離(大動脈壁が中膜のレベルで2層に剥離し、大動脈の走行に沿ってある長さもち2腔になった状態)のうち、上行大動脈に解離がないものと分類されている。合併症が無い場合は原則的に保存的管理を行うが、合併症を伴う急性例や慢性期における偽腔拡大が予測される場合においては、侵襲的治療として血管内治療が推奨されている¹。
- 外傷性大動脈損傷は、主に交通事故や転落に伴う突然の衝撃を原因として発症する。事故現場での致死率は80%以上とされるが、生存して搬送された場合に侵襲的治療として血管内治療が推奨されている¹。
- いずれの疾患においても日本における正確な発症率は明らかではない¹。2017年に日本で実施された胸部大動脈ステントグラフト治療の件数は6,081件であり、その内、大動脈解離あり2,058件、大動脈解離なし3,519件(胸部下行大動脈部は1,898件)であった²。外傷性大動脈損傷においては、発生原因を考慮すると非常に稀な疾患と考えられる。
- ゴアCTAG胸部大動脈ステントグラフトシステムは、血管内治療における大動脈用ステントグラフトであり、一定の解剖学的要件を満たす胸部大動脈瘤、Stanford B型大動脈解離、外傷性大動脈損傷患者に対する適応を有している。

¹ 2020年改訂版 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン、² Hoshina K et al. (2021)

表1:胸部大動脈瘤、Stanford B型大動脈解離、外傷性大動脈損傷に対する適応を持つ大動脈用ステントグラフト一覧

機器名	ゴアCTAG	VALIANT	COOK Zenith Alpha	Relay Pro	Relay Plus	COOK Zenith 大動脈解離用	カワスミ Najuta
機能区分	可動型	標準型	標準型	標準型	標準型	大動脈解離用	血管分岐対応型
償還価格(円)	149万	143万	143万	143万	143万	155万	206万
適応	胸部大動脈瘤	○	○	○	○	○	○
	合併症を伴う急性 Stanford B型大動脈解離	○	○		○	○	
	合併症を伴う慢性 Stanford B型大動脈解離	○	○			○	
	外傷性大動脈損傷	○					

ゴアCTAG: ゴアCTAG胸部大動脈ステントグラフトシステム